令和３年度　岐阜県立土岐紅陵高等学校

学校運営協議会（第２回）　会議実施報告書

１　会 議 名　　土岐紅陵高等学校運営協議会（第２回）

２　開催日時　　令和３年１１月１６日（火）１３：４０～１５：４０

３　開催場所　　土岐紅陵高等学校会議室

４　参 加 者　会　　長　　土　本　　泰　至学館大学
　　委　　員　　飯　田　明　子　土岐市立西部こども園長
　　仙　石　守　一　土岐市立下石小学校長
　　西　尾　咲　子　下石女性の会会長
　　山　岡　　哲　土岐市まちづくり推進課長

　　学 校 側　　下　平　義　広　校長
　　安　藤　範　和　教頭
　　河　村　拓　士　生徒指導主事
　　薄　田　直　樹　進路指導主事
　　加　藤　智　子　活性化推進部

５　会議の概要（協議事項）

⑴　演劇ワークショップの概要説明と参観

⑵　議事

①　スクール・ポリシーについて

⇒特に生徒をどう育てるかという点において、地域社会との連携による体験的・実践的な活動を積極的に行っていきたいと考えている。

意見１：生徒に土岐市のマスコットキャラクター「とき丸」のデザイン画を作成してもらった。今後の活用も楽しみにしている。

意見２：多才な生徒を伸ばしてほしい。スポーツ振興に携わっているが、以前も放課後教室などで数名の生徒が協力してくれた。今後もぜひ連携をお願いしたい。

②　校則等の見直しについて

⇒第１回で出された意見を踏まえながら、生徒会でも検討を進めている。

意見１：清潔感があり挨拶がしっかりできればいいと感じている。規制がなければ自由奔放になってしまうのだろうか。面接基準、企業の要望も考えていく必要があるのではないか。

意見２：生徒会で考えていくことが必要である。

意見３：人に迷惑をかけたり、授業の妨げになったりするようなことは駄目である。相応しくない例を示し、自分で考えて行動できることが大切であり、自己責任である。

意見４：これがスタンダードというものを示し、授業の妨げになるものは好ましくないとする。

意見５：３年生の進路決定に向けて、商工会からのアドバイスを受けるとよい。

③　体育施設の開放について

⇒県内の県立学校においても、グラウンドやテニスコート、体育館を開放している事例があり、施設を開放する場合には開放要綱、開放実施要領に従って行うことになる。現在は、学校開放事業は実施していないが、学校としては地域からの要望があれば開放可能であると考えている。

開放する場合の施設は、体育館、グラウンド、テニスコートである。実施可能な競技種目は、室内競技全般、野球、ソフトボール、サッカー、テニスなどが考えられる。課題としては、鍵の管理をどのように行うかという点と、開放する場合に、管理者が開放日時に管理上の勤務が必要となると、勤務時間の調整が必要となる点である。

意見１：小学校では、体育館の開放や、土日の夜間にサッカーで活用している例がある。鍵については、学校の勤務時間内に利用者が受取るようにしている。監督はしておらず、利用者の責任で開放している。もし、校門の鍵を自由に解錠することが難しく、駐車場を確保できなければ、隣の保育園の跡地を利用することも可能である。

意見２：地域住民のニーズがあるのか。

意見３：野球クラブの指導に携わっているが、数年前に市内の県立学校のグラウンドを借りていた。ファックスで申込みをして、学校から許可証を発行してもらっていた。もし、利用させてもらえるということであれば、ニーズはあると考える。

意見４：多治見市の施設では、隣接する県外からの利用申請もある。隣接する市町村にも貸し出しを可能とすることとした場合には、他県の使用を認めるのか。

⇒隣接する他県にも開放するのかについては、県教育委員会に確認をする。地域からのニーズに応えられるよう、将来的な開放に向けて、鍵や駐車場についてのよりよい方法を検討しながら進めていきたい。

④　生徒及びその保護者を対象とした学校評価の結果について

⇒アンケートの回答率は生徒８３パーセント、保護者３４パーセントとなっている。全体的には生徒、保護者ともに例年と大きな違いはない。

生徒指導面における「基本的なモラルやマナーを身に付けさせようと努めている」や、「いじめや差別を許さず、厳しく対応している」については否定的な回答が１５パーセント程度であるため、状況を見ながら対応していく必要性を感じている。

保護者アンケートの結果では、ほとんどの項目で肯定的な回答が８０パーセント程度であったが、学校独自項目の「礼儀・作法がよくしつけられている」については、否定的回答が２１パーセントという結果であった。礼儀や作法についての指導への期待を感じる部分である。

意見１：元気な生徒が多く、アンケートからも生徒は喜んで学校に通っていると感じる。

意見２：幼児教育においても挨拶を大切にしているが、校内での挨拶も良く、素晴らしいと感じている。

⑤　コロナ対応の現状と後期行事予定について

⇒本校では、生徒の健康チェックカードを担任が保管し、登校後の昇降口で記入させている。学校行事等については、３年生の修学旅行や１年生の就業体験は中止とし、１１月に入りようやく２年生が感染防止対策を徹底しながら山梨県へ修学旅行に行くことができた。沖縄からの変更のため、水に触れる体験を取り入れたいと考えて本栖湖でのカヌー体験を行った。

後期は３年生の遠足、球技大会、演劇ワークショップ、高校見学会などを予定している。

⑥　ＩＣＴ環境整備と活用状況について

⇒昨年から全生徒にタブレット端末を貸与して授業及び各家庭での活用推進に向けて取り組んでいる。各ホームルーム教室を中心に黒板をホワイトボートに張替えをして、プロジェクター、Ｗｉ−Ｆｉルーターが常設されたが、総合学科棟と理科棟、芸術棟では無線ＬＡＮの電波が弱い現状にあり、新たに固定及び可動式のＷｉ−Ｆｉルーターを整備した。これにより、校内の全ての校舎で安定して接続することが期待できるようになった。

⑦　進路の現状について

⇒就職については、競争倍率の高い企業への内定を果たした生徒もいるが、数名の不採用者もいる。理由としては、面接の印象や適性検査の結果、事務系職種では資格取得の差で採用を逃した。不採用者については、現在求人のある企業の受験に向けて進めている。

進学について、四大、短大の入試はこれから年明けにかけて始まるところが多い。医療系専門学校の不合格の理由が面接であったため、進学者への面接指導も必要性に応じて対応を充実させていく予定である。

意見１：就職と進学の割合はどうなっているか。

⇒就職・進学は約半数ずつとなっている。

意見２：課題解決学習からの繋がりを感じる。土岐市も保育士不足であり、本校において保育系に進む生徒が１名ということで寂しい。実習にも２名の生徒が参加してくれたが、保育士の育成の視点でも協力できるとよい。

⑧　地域連携に係る取組状況について

⇒昨年度より土岐市の第六次総合計画についての４つのテーマでの学びを深め、今年度は３年次生が「課題解決学習」において地域の課題を探究しようという大きなテーマのもとに個人でテーマを設定して取り組んでいる。１０月に入り、ようやく地域の方々からお話を伺う機会を持つことができた。１月２１日に生徒の代表者による発表を予定している。

意見１：地域包括支援センターのチラシにも生徒が描いた挿絵を利用している。印象が変わり、内容が伝わりやすくなった。

意見２：暮らしの中にある住民の課題や行政の課題の解決に向けて、力を合わせて継続的に取り組んでいきたい。

⇒今年度もコロナ禍で思うような活動ができない状況であった。今後も地域での活動の場を充実させながら学びを深めていきたい。

⑨　中学生を対象とした見学会等の実施状況について

⇒１１月６日（土）に実施した中学生とその保護者を対象としたオープンスクールのアンケートから、授業見学では、実際に授業の様子が分かり、少人数授業や雰囲気、教員の説明の分かりやすさなどについて満足であったとの意見を得た。学校説明については、資料だけでは分からない内容が理解でき、質問にもよく答えてくれた点において満足との意見を得た。

意見１：保護者同伴であったのか。

⇒保護者同伴での参加も多くあった。

意見２：土岐市内の中学生が対象であったのか。

⇒対象は主に東濃地区の中学生であったが、遠くは可児市からの参加もあった。

6　会議のまとめ

今回は、様々な議題について多くの視点からの意見を交わした。今回の意見を今後の学校運営に生かしていきたい。本来であれば地域に出て学びを深めたいところであったが、コロナ禍でなかなか叶わなかった。今後地域の協力を得ながらそういった活動を充実させていきたい。

第３回学校運営協議会では課題解決学習発表会を参観したのち、次年度の学校運営方針について検討する予定である。